**第22章　衛生**

**医療施設・病床の概況**

　昭和61年の医療施設総数は１万1282施設で、前年に比べ182施設の増加である。これを種類別にみると、病院総数は600施設で、そのうち一般病院が557施設（構成比92.8％）で大半を占め、以下、精神病院42施設、結核療養所１施設の順となっている。なお、人口10万対の病院数は6.9、一般病院で6.4、1施設当たりの人口は、病院総数で１万4510人、一般病院で１万5630人である。また、一般診療所数は6684施設で、前年に比べ132施設の増加、人口10万対の一般診療所数は76.8で、１診療所当たりの人口は1303人である。歯科診療所数は3998施設で、前年に比べ140 施設の増加、人口10万対の歯科診療所数は45.9で、１診療所当たりの人口は2178人である。
　全施設の病床数は11万8694床で、前年に比べ3231床（2.8％）の増加である。人口10万対の病床数は1363床で、全病床数のうち93.2％が病院、6.8％が一般診療所の病床である。また、一般診療所の病床を含めた一般病床が78.8％で最も多く、以下、精神病床が17.6％結核病床が2.9％の順となっている。

**死亡の概況**

　昭和61年中の本府の死亡数は４万8266人、10分53秒に１人亡くなったことになる。人口千対の死亡率は5.7で全国（6.2）でも低い方である。
　主要死因別の順位をみると、第1位は悪性新生物１万3764人（構成比28.5）、以下、心疾患9730人（同20.2%）、脳血管疾患6093人（同12.6％）、肺炎及び気管支炎3389人（同7.0％）、自殺1653人（同3.4％）、不慮の事故及び有害作用1514人（同3.1％）の順となっている。

**伝染病患者の概況**

　昭和61年中の府下における伝染病発生届出総数は、1178人で、その内訳をみると、法定伝染病142人、届出伝染病113人、性病923人、らい１人となっている。

**幼児・児童一生徒の体格**

　昭和61年度における府下の幼児・児童・生徒の平均体格（大阪市を除く）について、５歳（幼稚園）と15歳（高一）を例にみると、男子５歳は身長が110.2cm、体重が18.8kg、胸囲が55.6cm、座高が62.5cmで10年前と比べ、それぞれ1.1cm、0.5kg、1.2cm、1.1lcm伸び、同15歳は身長が167.9cm、体重58.0kg、胸囲82.6cm、座高89.6cm で10年前と比べ、それぞれ0.8cm、2.0kg、0.6cm、0.3cm伸びている。
　また、女子５歳では、身長109.5cm、体重18.4kg、胸囲54.5cm、座高62. 0cmで10年前と比べそれぞれ1.5cm、0.6kg、1.3cm、1.3 cm伸び、同15歳では、身長157.2m、体重51.6kg、胸囲80.4cm、座高85.1 cmで10年前と比べ座高は変動なく、他はそれぞれ0.7cm、0.9kg、0.3cm伸びている。

**公害の現状**

　本府における公害問題は、昭和40年代に深刻な様相を呈するようになったが、事業者及び関係者の理解と協力のもと、各種の公害防止対策を推進してきた結果、全般的には改善の傾向がみられるようになってきた。
　しかしながら、窒素酸化物による大気汚染、一部の河川や大阪湾の水質汚濁などが解決すべき課題として残されている。さらに、交通公害問題や近隣騒音問題など日常生活に起因する都市・生活型公害や廃棄物問題などが重要な課題となっている。
　なお、61年度の本府及び市町村に寄せられた公害苦情件数は5213件で、騒音が最も多く2048件（39.3％）、次いで大気汚染が1170件（22. 4 ％）となっている。